

## ■ 関大初！ KU-ORCAS がクラウドファンディングを開始 ■ バチカン図書館に眠る日本関連史料の謎に迫る！ ～ 国宝級の史料をデジタル化してすべての人の手に ～

このたび、KU-ORCAS（関西大学アジア・オープン・リサーチセンター）では、バチカン図書館に眠る日本関連史料をデジタル化し、歴史的発見に挑むプロジェクトを2月28日よりクラウドファンディングサイト「academist（アカデミスト）」にて開始します。

### 本件の ポイント

- ・東アジア研究を牽引する KU-ORCAS が、バチカン図書館に眠る日本関連史料をデジタル化
- ・関西大学公認としては初となる研究クラウドファンディングが始動
- ・サポーターには、バチカン図書館ツアーや慶長遣欧使節団の足跡案内など豊富なリターンを用意

### ■ いまだ研究・分析がされていない多くの東アジア関連史料がバチカン図書館に眠っている

バチカン図書館には、ラテン語を中心とした欧米言語の史料ばかりが収蔵されていると思われがちですが、実は日本を含めた東アジアの関連史料が多数収められています。しかし、どの史料も研究・分析がほとんど進んでおらず、史料の価値は未知数であるのが現状です。本学では、バチカン図書館との間で歴史的文献や史料の研究における協定を日本の大学としては初めて締結（2017年9月）。今回のプロジェクトでは、日本関連史料のなかでも、古写経や江戸時代の軍記物、キリシタン資料など、いまだ手付かずの史料にスポットをあて、デジタル化しながら歴史的な新発見に挑みます。また、日本関連史料がバチカン図書館に収蔵されるまでの経緯を研究し、日欧文化交渉の新たな側面を明らかにしたいと考えています。

### ■ 一般公開されていないバチカン図書館見学ができるリターンも用意

KU-ORCAS は、デジタル化を通して貴重な史料を多くの人々に閲覧してもらうことを目標としています。今回のプロジェクトを始動したのも、学問領域や人の垣根を越えた新たな人文知を創造したいという強い思いが背景にあります。ご支援いただいた研究費は史料群のデジタル化や史料の鑑定などに充てます。また支援へのリターンは、①一般公開されていないバチカン図書館の見学、②慶長遣欧使節団がバチカンを表敬訪問するまでの足跡案内（ローマ～バチカン）などバラエティに富んでいます。



### < 「KU-ORCAS による研究クラウドファンディング」の概要 >

< バチカン図書館 >

【募集期間】 2月28日（金）～ 4月30日（木）< 予定 >

【募集サイト】 学術系クラウドファンディングサイト「academist（アカデミスト）」

プロジェクト名：「バチカン図書館に収蔵された日本関連史料の謎に迫る！」

▼ <https://academist-cf.com/projects/162?lang=ja>

【目標金額】 1,500,000円

【支援およびリターン】

支援額は1,000円（税抜）から200,000円（税抜）まで多数用意。リターンの内容は支援額により異なり、200,000円（税抜）の支援の場合、書籍のデジタル化体験やバチカン図書館見学（往復旅費・宿泊料は各自負担）、慶長遣欧使節団の足跡案内（ローマ～バチカン）などの特典が受けられる。

※詳細は KU-ORCAS のサイトをご参照ください

▼ <https://www.ku-orcas.kansai-u.ac.jp/crowdfunding/>

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：浦田、寺崎

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel. 06-6368-1507 Fax. 06-6368-1266

[www.kansai-u.ac.jp](http://www.kansai-u.ac.jp)

## ■ 「バチカン図書館に収蔵された日本関連史料の謎に迫る！」の詳細

世界最古の図書館のひとつであるバチカン図書館に収蔵されている日本関連史料のうち、古写経や江戸時代の軍記物、キリシタン資料など、いまだデジタル化されていないに焦点をあて、デジタル化したものを KU-ORCAS（関西大学アジア・オープン・リサーチセンター）のプラットフォームを活用しながら広く公開するとともに、調査・研究を進める。

【募集期間】 2月28日（金）～ 4月30日（木）（予定）

【募集サイト】 学術系クラウドファンディングサイト「[academist（アカデミスト）](https://academist-cf.com/projects/162?lang=ja)」  
プロジェクト名：「バチカン図書館に収蔵された日本関連史料の謎に迫る！」  
<https://academist-cf.com/projects/162?lang=ja>

【目標金額】 1,500,000円

【支援およびリターン】

支援額は1,000円、3,000円、5,000円、10,000円、30,000円、50,000円、100,000円、150,000円、200,000円（いずれも税抜）。

リターンは報告書（PDF）の送付、KU-ORCASグッズの提供、研究報告会への招待など支援額に応じて多種設定している。200,000円（税抜き）の支援の場合、書籍のデジタル化体験やバチカン図書館見学（往復旅費・宿泊料等は各自負担）、慶長遣欧使節団がバチカンを表敬訪問するまでの足跡案内（ローマ～バチカン）も含まれる。

【研究計画】

2020年5月 バチカン図書館において担当者との交渉、日本関連史料の状態を確認  
2020年6月 バチカン図書館に日本関連史料のデジタル化を申請  
2020年9月 各分野の専門家とともにバチカン図書館に赴き、日本関連史料を鑑定（予定）  
2020年11月 日本関連史料へのメタデータ（書誌情報）付与に関するワークショップを開催  
2021年2月 バチカン図書館収蔵日本関連史料に関する国際シンポジウムを開催  
2021年3月 クラウドファンディング支援者向け成果報告会、クラウドファンディング支援者向け個人懇談会

※詳細は KU-ORCAS のサイトをご参照ください。

▼ <https://www.ku-orcas.kansai-u.ac.jp/crowdfunding/>

## ■ バチカン図書館とは

バチカン図書館（La Biblioteca Apostolica Vaticana）は、ローマ教皇庁の図書館であり、世界最古の図書館のひとつ。歴代の教皇が所有していた古写本などに加え、購入本やさまざまな経緯を経て収蔵されるに至った遺贈品などを収蔵。資料は、刊行本、写本・手稿、15世紀の初期刊行本、コイン・メダル、鋳型・下絵等という具合に、実に多彩で膨大な数を誇り、ラテン語やギリシア語をはじめ、ヨーロッパの各言語、アラビア語、中国語、日本語などあらゆる言語を網羅している。とりわけ、聖書などの写本を色鮮やかに製本した「装飾写本」が多数含まれている。

2011年にバチカン図書館で発見された、キリシタン禁制に関わる重要史料のマレガ文書のほかにも、慶長遣欧使節をヨーロッパへと送り出した伊達政宗の教皇パオロ5世宛書簡などもあり、日本史、日欧交流史を解き明かすうえで欠かせない史料が数多く収蔵されている。

東アジア関連の収蔵資料としては、中国語、朝鮮語、満州語、チベット語、モンゴル語、ベトナム語など東アジア諸言語をほぼ網羅しており、19世紀のベトナム語版聖書も収蔵されている。これらの資料を使った研究は例がなく、研究が進展すれば、日本はもとより、一層グローバルな視点からの東アジア・ヨーロッパ交流史の全容解明にもつながることも期待されている。

## ■ オープン・プラットフォームが開く関大の東アジア文化研究

KU-ORCAS は、東アジアの文化研究の発信拠点として、研究者から市民まで広く開かれた場を形成し、その一環としてバチカン図書館と学術協定を結んでいる。KU-ORCAS では、国際的学術ネットワークや長き学統の中で培われてきた“関西大学の東アジア文化研究”の学術リソースを基盤に、デジタル知識基盤社会に適合した「デジタルアーカイブ」を構築している。同時に、研究リソースのオープン化、研究グループのオープン化、そして、研究ノウハウのオープン化、研究成果のオープン化という「4つのオープン化」のポリシーのもとに、これまでの学問領域や人の垣根を越えた新たな人文知の創造に向けて、世界に開かれたハブ的機能を備えたオープン・プラットフォームを形成し、世界最高水準の東アジア文化研究拠点を形成すべく活動している。

以上